



平成17年
1月5日号

No. 1188

●毎月5・15・25日発行

広報 かもがわ

- 編集発行・鴨川市役所秘書課
広報広聴係
- 電話・0470(93)7827
- FAX・0470(93)7850
- 鴨川市横渚1450
- 郵便番号・296-8601

共に手を取り こぎ出そう 新時代の大海原へ

平成17年・酉年

さあ、新しい年・平成十七年がスタートしました。私たちに、二月十一日の新市誕生という、もう一つの「幕開け」が、間近に控えています。また今年は、太海多目的公益用地に城西国際大学（仮称）「観光系学部」の建設着工が予定されるなど、活気ある学園都市づくりが本格的に始動する年でもあります。

合併日まであと三十七日。市では、新しいふるさと鴨川が羽ばたく未来に向け、天津小湊町と両翼を担いながら、「自然と歴史を活かした観光・交流都市」の実現をめざしていきます。



2月11日から同じまちの小学生。どうぞ、よろしくね！

ユニークな写真作品を手に、本多市長と表紙を飾るのは、江見小児童5人（向かって右）と小湊小児童7人（向かって左）の皆さん。全員が酉年生まれの子供たちです。2つのグループは、新市誕生を記念した「コムグラフ」という作品づくりに半年前から取り組んでいます。鴨川ロータリークラブと鴨川ライオンズクラブが主催するこの記念イベントには、市と天津小湊町の小学生16グループ、81人が参加。写真家・今井紀彰さんの指導を受けながら、共同作業を進めています。各作品は、新市に向けた子どもたちの夢や大人たちの希望とともに大きな作品にまとめられ、合併日に披露されます。

として保存しましょう



両市町の魅力を生かした
新しいふるさとに
市長 本多利夫

新年、明けましておめでとうございます。市民の皆様方には、平成十七年の輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。さて、依然として厳しい経済情勢が続く中、国の財政再建への取り組みとともに、三位一体改革による国庫補助金の廃止・縮減や税源移譲、地方交付税の見直しなどが進められ、地方分権推進の中で、各自治体では一層の行財政基盤の強化が求められております。ご承知のように、我が鴨

◆◆◆ 新年のごあいさつ ◆◆◆



二十一世紀にふさわしい
まちづくりを求めて
議長 鈴木正明

川市と天津小湊町は、両市町民皆様をはじめ、議会や多くの関係者皆様方の深いご理解と温かなご協力によりまして、本年二月十一日を合併期日として、新設合併では県下初という新しい「鴨川市」が誕生することになりました。

既に、各地域で合併を祝うイベントなども開催され、皆様方の合併への盛り上がりを感じ、改めて、受け入れられる合併であることの喜びを実感し、深く敬意と感謝を申し上げます。結びに、市民皆様のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

この意義ある合併を契機に、両地域の有形、無形の素晴らしい財産と特性を持続的に活用し、地域の力を結集しながら、心新たに新市「鴨川市」の振興と市民福祉の向上に努めてまいります。

特に、学園のまちづくりに向けて、太海多目的公益用地における城西国際大学（仮称）観光系学部誘致の早期実現に、市を挙げて全力で取り組んでまいりたいと存じております。結びに、市民皆様のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。輝かしい平成十七年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日ごろの皆様には、市議会に対し、深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜りまして、心から厚くお礼を申し上げます。

さて、本市を取り巻く情勢は、様々な分野において変革の時期を迎えており、長引く経済不況への対応をはじめ、少子・高齢化対策、行財政改革や地方分権の推進など重要な課題が山積し、

これらの諸課題に迅速に対応し、かつ時代に即応した施策の展開が強く求められております。

このような潮流のなか、本市は、二月十一日に隣接する天津小湊町と合併し、人口三万七千人の新生「鴨川市」として新たな歴史の一ページが開かれます。

新市の将来都市像は、自然と歴史を活かした観光・交流都市を掲げ、みんなで創る光り輝くふるさとをめざし、市民の皆様が、安全で安心して心豊かに生活できる地域づくりを推進し、

新市への移行がスムーズに行えるよう、なお一層の努力をさせていただきます。

また、二十一世紀にふさわしいまちづくりを求めて、地域にある恵まれた豊かな自然、個性的な歴史や文化を大切に、地場産業等の振興を図り、合併をして本当に良かったと実感できる地域を市民の皆様と共につくり、共に生き、共に喜び合えるように全力を尽くしてまいります。

結びに、皆様方のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。